2015年 冬号
Vol. 37
—季刊年4回発行—

私たちは、いつもココロでつながっている。
さあ！みんなで世界へふみ出そう!!

NEWS Letter

二本松青年海外協力隊訓練所

ADATARA
あだたら

写真提供：三村 悟

Contents

特集

太平洋・島サミットが福島にやってくる！

～南の島国を語ろう～

P3 イベントレポート・VOICE
P4 現地レポート「From サモア」

JICA Volunteer

南の島国を語ろう

“太平洋・島サミット”が 福島にやってくる！

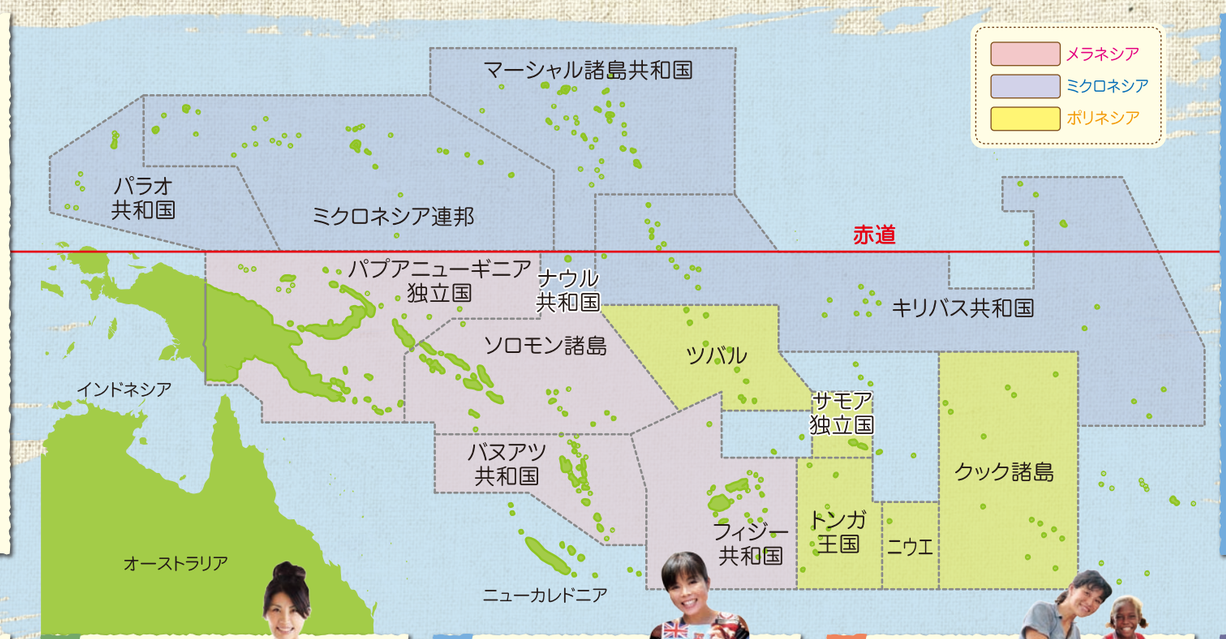
協力隊 OB/OG が教えます！

南の島はこんな国！

太平洋の島々は、ミクロネシア（小さな島々という意味）、メラネシア（黒い島々という意味）、ポリネシア（多くの島々という意味）の3つの地域に分けられ、それぞれ独自の文化を有します。今回は、各地域で活動してきた協力隊員たちに、現地の様子や活動中の思い出を聞いてみました。

太平洋・島サミットとは？

太平洋の島国は、とても親日的で、国際社会において日本を支持してくれる重要なパートナーです。太平洋・島サミットは、日本がこれらの国々との関係をより良くするために、1997年に初めて開催されて以降、3年毎に日本で開催されています。サミットでは太平洋の島国が抱える様々な課題について共に解決策を探り、太平洋島嶼地域の安定と繁栄を目指し、首脳レベルで議論を行っています。この太平洋・島サミットの第7回目が、2015年5月22日～23日に福島県いわき市で開催されることになりました。首脳級の国際会議が福島で開催されるのは初めてのことなのです。この機会にサミットについて、そして太平洋の島国について学びましょう!



パラオ共和国

面積：488㎢（屋久島とほぼ同じ）
人口：約20,920人
言語：パラオ語、英語

坂中 澄子さん
平成12年度1次隊
（職種：小学校教諭）

こんな活動をしていました！

マルキョク州の小学校に派遣され、情操教育がまだあまり定着していなかったパラオで主に体育と音楽の指導を行いました。

パラオってこんな国！

パラオは、日本の真南に位置し、サンゴ礁の美しい海に囲まれ、大小の島々を合わせると屋久島とほぼ同じ広さの国です。2006年にマルキョク州に遷都しました。人口約2万人、おおらかでやさしい人々が暮らしています。

とっておきの1枚

算数の「かさ」の授業の写真です。パラオは ℓでなく、gal（ガロン）を使います。1galが何qtなのかわかり、子供達から歓声が起こりました。

ミクロネシア連邦

面積：700㎢（奄美大島とほぼ同じ）
人口：約103,549人
言語：英語、現地語（8つ）

松井 智宏さん
平成23年度2次隊
（職種：小学校教諭）

こんな活動をしていました！

ミクロネシア連邦の東端コスラエ州にあるウトエ小学校で、現地の教員とともに算数を教える。

ミクロネシアってこんな国！

ミクロの言葉どおり小さな島々からなる国。州ごとに異なる言語・文化を持ち、日本統治の歴史から今でも日本語が残る。百種以上の珊瑚が住む美しい海と豊かな自然に囲まれ、心温かい人々が迎えてくれるホスピタリティに溢れる国です。

とっておきの1枚

マングローブと珊瑚が共存している神秘的な場所。ユネスコの生物圏保護区に指定されている。（コスラエ州）

パプアニューギニア独立国

面積：46.27平方キロメートル（日本の約1.25倍）
人口：約7,321,000人
言語：英語、ピジン英語、モツ語

泉田 裕章さん
平成23年度3次隊
（職種：理数科教師）

こんな活動をしていました！

中学3年生から高校3年生までの数学とコンピュータの授業を担当しました。問題集を作ったり、プレゼン大会を行いました。

パプアニューギニアってこんな国！

数千を越える独立した部族が存在しており、800を越える現地語があると言われているパプアニューギニア。緑深い森林とサンゴ礁に囲まれた美しい海など、手つかずの自然と独特なカルチャーが息づいています。

とっておきの1枚

配属先の創立50周年記念行事が行われました。マヌス州の「結婚の儀式」をテーマにしたシンシン（歌や踊り）ショーの様子です。

バヌアツ共和国

面積：12,190㎢（新潟県とほぼ同じ）
人口：約250,000人
言語：ビシュラマ語（ピジン英語）、英語、仏語

岡田 麻紀さん
平成13年度1次隊
（職種：体育）

こんな活動をしていました！

全生徒約400人の中高一貫校にて保健体育教師として活動しました。学校内の授業以外にも、バヌアツ国の保健体育教科書作りや国体の企画・運営に携わりました。生徒たちの希望で、日本語を教えたり空手を教えたりもしました。

バヌアツってこんな国！

透明な海、真っ青な空、白い砂浜、カラフルな魚達、背の高いヤシの木、燃えるような太陽、そして、真っ白な歯を見せながら陽気に笑う人々の笑顔。そんな優しい南国の風景に出会える国、それがバヌアツです。

とっておきの1枚

学校の夏休み期間にバヌアツ国内を旅しました。その時に、バヌアツ最古の伝統が残る村に滞在した時のものです。現在も、洋服を着ずに、木の皮を剥いたものを身につけて生活している人たちがいるんですよ!

フィジー共和国

面積：18,270㎢（四国とほぼ同じ）
人口：約881,000人
言語：英語、フィジー語、ヒンディー語

中根 倫子さん
平成23年度1次隊
（職種：理数科教師）

こんな活動をしていました！

算数や数学の授業がよりよいものになるよう、現地の先生方と指導法や視覚教材の活用法について試行錯誤を繰り返しました。また、任期中には教科書改訂作業に参加する機会もありました。

フィジーってこんな国！

笑顔いっぱい、幸せいっぱい。フィジーの人たちは手を取り合い、助け合って生活しています。決して豊かとは言えない環境のもとで暮らしていても、人々の心はいつも優しさと幸福感に満ちあふれています。フィジーは小さな島国ですが、魅力がぎっしり詰まった素敵な国です!

とっておきの1枚

配属先の学校で、生徒と一緒に撮影したものです。カメラが高級品で、写真に写る機会が少ないせいか、フィジーの人たちは写真を撮ってもらうのが大好きです。

トンガ王国

面積：720㎢（対馬とほぼ同じ）
人口：約105,323人
言語：トンガ語、英語

金谷 奈美さん
平成9年度3次隊
（職種：家畜飼育）

こんな活動をしていました！

農業家畜省で飼育している輸入した大型豚と農家の在来豚との人工授精を行っていました。

トンガってこんな国！

王国であるトンガは、小学校でそろばんの授業があったり、カボチャ（特に冬場）を日本に輸出していたり、いろいろと日本との親交が深い国です。ホエールウォッチングに訪れる日本人観光客も増えています。

とっておきの1枚

隊員時代にお世話になった養豚施設長のイシさん（後列右）とそのご家族に、12年振りに再会しました（2012年）。

サモア独立国

面積：2,830㎢（東京都の約1.3倍）
人口：約188,900人
言語：サモア語、英語

金谷 祐昭さん
平成9年度3次隊
（職種：測量）

こんな活動をしていました！

土地・測量・環境省の地図作成課で、全国地図や、首都アピアの観光地図などを作成していました。地理情報を集めるため、海岸から山頂まで、同僚たちと全国を歩き回りました。

サモアってこんな国！

南太平洋を横切る日付変更線のすぐ東側にあるサモアは、「世界で最後に夕日が沈む国」です（注）。主食の山芋類や、魚、ココナッツ、バナナ、果物類が1年を通じて採れ放題。人々は大らかで、笑いが絶えず、何があっても一言「心配するな（アウアポポレ：Aua Popole）」。

とっておきの1枚

航空写真測量（飛行機から写真を撮って地形図を作ること）のため、海岸沿いにある基準点（鋲や標石が地面に埋設されています）に同僚とペンキで十字印をつけているところ。

もっと知りたい！ 島サミットのこと

答えてくれるのはこの方

福島大学
うつくしまふくしま未来支援センター
特任教授 **三村 悟さん**

JICA入職後、多数の防災分野のプロジェクトに携わる。2004年、スマトラ沖大地震・インド洋津波の後には、インドネシア、スリランカ、タイなどの防災計画策定やコミュニティー防災能力向上に尽力。東南アジア第六・太洋州課の課長として大洋州の島国の問題にも取り組む。2011年2月には、ニュージーランド南島地震が発生し、国際緊急援助隊のコーディネーターとして参加。現在、JICAより福島大学に出向。

なぜ、いわきで開催するの？

三村：太平洋島嶼国と日本は地球の3分の1を占める大きな太平洋を分かち合う「隣国」です。海によって隔てられているのではなくて、海によってつながっているのです。福島県も太平洋に面して広い海岸線があり、これらの国々と太平洋を分かち合っていて、その表玄関がいわきなのです。いわき市にはみなさんよくご存じのスパリソート・ハワイアンズがあって、ポリネシア・ダンスのショーを通じた、長年にわたる文化と人のつながりがあり、フラガールのみなさんは島サミットの親善大使にも任命されています。

南の島にはどんな問題があるの？

三村：南の島は楽園のイメージがあり、実際数多くの観光客がリゾートを訪れています。しかし島々は、他の国から遠く離れていることやその小ささゆえに、経済や環境など、多くの問題を抱えています。国内で生産できるものが限られているので、輸入に多くを頼ることになり、経済は国際市場の動向に大きな影響を受け、さらに輸送コストが高いために物価高となります。また、気候変動の影響をもっとも受けやすい国でもあります。津波や台風、干ばつなどの自然災害も多く、国土の保全や防災、水資源の確保など、小さな島国だけでは解決できない大きな問題をたくさん抱えています。

日本からはどんな支援ができるの？

三村：島々が抱える多くの問題、特に防災やエネルギー、水や環境の問題などは、日本が得意とする分野であり、特に福島の持っている技術や経験が島の課題解決に大いに役立つものと期待されています。日本の若者やシニア層にとっても、太平洋の島々は観光地として魅力的であるだけでなく、持っている技術を生かせる場でもあります。日本の政府開発援助（ODA）のうち太平洋の島国に対するものは全体の1%に過ぎませんが、青年海外協力隊やシニア海外ボランティアについては、全世界の約10%がこの地域に派遣されています。日本にとっては大きな割合ではなくても、規模の小さな島国にとっては日本の支援はとても大きいものであり、特にボランティアによる顔の見える協力が、日本への好意的な姿勢につながっています。

島サミットではどんなことを話し合うの？

三村：太平洋・島サミットでは、人類共有の財産である太平洋に関する、安全の確保や資源・環境の保全、気候変動のような地球規模課題、そして人と人との交流など、幅広い分野の話し合いが行われます。日本から島国への支援も重要な議題ですが、同時に日本は島国から資源を輸入するなど、ビジネスのパートナーとしても重要な国々であり、民間交流の促進なども話し合われます。

三村先生、ありがとうございました!

EVENT REPORT

青年海外協力隊 帰国報告会

イベントレポート1

バングラデシュでの経験を語る國分彩子さん(1月17日)

JICA二本松では、福島県から世界へ旅立ち、青年海外協力隊として活躍した隊員の帰国報告会を毎年開催しています。

今回は、経済成長が目覚ましいアジアの国・バングラデシュで村落開発普及員として活動された國分彩子さん(平成23年度1次隊)と、中東の国・ヨルダンで体育隊員として活動された室井研一さん(平成24年度2次隊)のお二人にそれぞれの国での活動や生活の実際についてお話をしていただきました。

國分さんは、現地の村議会の運営に携わり、いかに多くの村人たちに喜ばれるサービスが提供できるかということを考え、家畜へのワクチン接種を実施したお話をいただきました。

一方、ヨルダンで活動された室井さんには、シリアからの難民の子どもたちに体育指導をされた報告をして頂きました。現地の子どもたちは、空を飛ぶミサイルを数えるような暮らしだったという貴重なお話や、故郷を思う子供たちを目の前にし平和を願う室井さんのメッセージを伝えてくださいました。

また、帰国報告会の後には、現在派遣中隊員のご家族向けに「留守家族連絡会」を開催し、協力隊経験者やJICAスタッフとの懇談を通して、ご家族の皆さんも安堵されたようでした。

ふくしまグローバルセミナー2014

イベントレポート2

ニュージーランド、カナダ、中国からの国際交流員たちもセミナーを盛り上げました(12月20日)

12月20日(土)・21日(日)、JICA二本松を会場に「ふくしまグローバルセミナー2014」が福島県国際理解教育ネットワーク(福島県、福島県国際課、(公財)福島県国際交流協会、JICA二本松)の主催により開催されました。

今年は、全体講師に拓殖大学国際開発研究所准教授の石川一喜さんをお迎えし、2日間を通して国際色豊かな16講座が開催され、参加者は興味のある講座を受講し、異文化との関わりや国際協力への理解を深めました。

18回目の開催となった今回は、2015年5月に「太平洋・島サミット」がいわき市で開催されることにちなんで、大洋州諸国について学ぶ講座も数多く開かれ、パラオやバヌアツ、トンガなどで青年海外協力隊として活動してきた隊員たちが講師として現地の経験を伝えました。

セミナーでは、講座以外にもパーティやカフェなど、参加者・講師が交流を持つ機会が多く設けられ、年齢・性別・国籍などの垣根を越えて交流し、深く学び合う貴重な時間を過ごしました。

VOICE ボイス

NPO法人 ルワンダの教育を考える会 理事長 永遠(とわ)璃・カンベンガ・マリールイズさん

このコーナーでは日頃よりJICA二本松を応援してくださっている県内の皆様にインタビューし、JICAボランティアとのエピソードや期待・エールをうかがっていきます。

今回は、福島市に拠点を置く、NPO法人「ルワンダの教育を考える会」理事長の永遠璃・カンベンガ・マリールイズさんにお話をうかがいます。

—NPO法人「ルワンダの教育を考える会」はどんな活動をしていますか?

15年前の2000年に、ルワンダの内戦を経験し、夢や希望を失った子供たちに教育を通してもう一度夢と希望を取り戻してほしいという思いから立ち上げた団体です。

ルワンダの子供たちのために学校を建設し、学校に通う子供たちの教育にも携わっていきたいという考えから、学校を建設する支援と教育支援を両立しています。

また活動を継続させるために「ルワンダに学校を作るに至った経緯」「教育を通して得られる命の尊さと平和について」を伝えるために後援会活動を行っています。

—日本の子供たちに伝えたいことはありますか?

日本の子供たちは夢を叶えるための様々なチャンスに恵まれていると思います。もっと積極的に勉強すると同時に教育は生きていくための大切な手段であると感じてほしいです。

そして「喜んで学ぶ」という姿勢がとても大切です。多くの学びや人との出会いが自分を大きくしてくれます。私も多くの学びを通して青年海外協力隊員と出会いました。

—ルワンダでは青年海外協力隊員とどのような活動をしていましたか?

被服づくりなどを通して当時のルワンダではまだ前例のなかったファッションショーを開催しました。初めてのファッションショーでは私も他の先生もわからないことばかりでとても苦労した思い出があります。

しかし2人目の青年海外協力隊員を私の専門学校に迎え入れた時には多くのアイディアを出し合い、専門学校の生徒と一緒にルワンダのカラフルな生地を使い浴衣や甚平を作成した。

—マリールイズさんの支えになっているものはなんですか?

ルワンダの音楽です。ルワンダのCDを何枚も持っていますし、私は音楽なしでは生きていけません。私のおじいちゃんとおばさんがイナンガというルワンダの弦楽器を弾くことができました。

また日常生活では様々な場所でルワンダ料理を振る舞う機会があるので、ルワンダから調理器具を持ってきました。

—マリールイズさんがこれからのルワンダに期待することはなんですか?

子供たちには、多様化の気持ち、たくさんのものに触れ、自分だけではなく周りの人々や環境とより良い関係を築く人になってほしい。またルワンダの若い人たちが国際社会の中で生きていく、そして世界を舞台として世界を良くして行こうという考え方、平和を目指す国になってほしい。

—これから青年海外協力隊員を目指す人たちに一言

世界と関わる喜びを感じてほしい。世界と関わることで「自分が何者なのか」そして「自分を取り巻く環境」、「関わっている人たち」を通して自信を持つことができます。

とても高いハードルのように感じますが、それを乗り越えた時やこの2年間を達成した時の喜び、そして派遣される前と派遣された後の自分を比べた時にそこには大きな自信が宿っていると感じています。

青年海外協力隊員を目指す皆さんは「自分が世界の一員である」という自覚を体験してほしいです。

これまでの活動が認められ「外務大臣賞」を受賞されたマリールイズさん。

これからもルワンダと日本の架け橋となる活動ができるよう期待しています。

JICA ボランティア

現地レポート from Samoa

福島県出身

サモア

佐原（さはら） 悠太（ゆうた）さん

平成25年度2次隊

出身地：福島市
派遣国：サモア
職　種：サッカー

▲いつも元気いっぱいな子どもたち

マロ！（こんにちわ）オアマイオエ？（調子はどうですか）

私は現在南太平洋の小さな島国、サモアにいます。ここでは道端で会えば赤の他人であろうと関係なし！笑顔で元気に声をかけてくれます。

サモア人は本当に明るい性格で、冗談を言い合うことや歌や踊りなどが大好きです。また敬虔なクリスチャンでもあるので毎週日曜は必ず教会に行きお祈りを捧げます。

▲ドリブル練習中

そんなサモアで、私はサモアサッカー協会（FFS）に配属されサモアサッカーの強化、育成、普及に取り組んでおります。

サモアでの国民的スポーツはラグビーで夕方になると空き地やグラウンド、庭など様々な場所でラグビーをしているサモア人をよく見かけます。一方サッカーはと言うと、徐々に人気は出て来ましたがやはりまだマイナーなスポーツといったレベルです。

▲サッカー大会開会式でダンスを踊る子どもたち

上述しましたがサモア人は歌と踊りが大好きです。日本ならば厳かに行われる開会式や閉会式でも音楽が鳴り出しますし、それはサッカーの場面でも変わりません。試合の休憩中やゴールの直後などは爆音で音楽がかかります。また子どもの準備運動としてダンスをすることもしばしば。

様々な課題があり、難しい現実もありますが、現地の人と協力して、また私も時には一緒に踊りながら（？）ゆっくりと活動していきたいと思います。

▲日曜日の朝の教会

▲サモア17歳以下代表の選手たち

福島にゆかりのあるJICAボランティア

平成26年度4次隊（27年3月出発）
①出身地 ②派遣予定国 ③職種

青年海外協力隊
菅野（かんの）ひかるさん
①宮城県（福島刑務所勤務）
②グアテマラ
③感染症・エイズ対策

旅行先のアジアで現地の人々からお金や物を乞われたことをきっかけに、国際協力の分野に目が向いて、青年海外協力隊を志すようになりました。わたしを支えてくれるすべての人の理解や協力に感謝し、この貴重な経験を大きな糧とできるよう謙虚な姿勢で活動に取り組んでいきます。

青年海外協力隊
佐藤（さとう） 結香（ゆか）さん
①いわき市
②ウガンダ
③医療機器

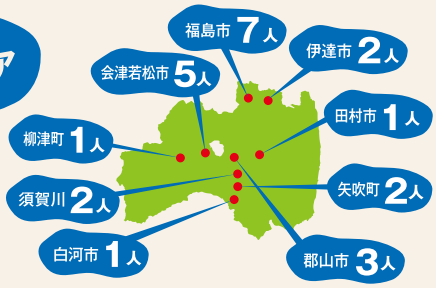
私は英会話ができるわけでもありません。その不安を消してくれるのは「世界中の人々の為に何か役に立ちたい」「何も行動しないで後悔はしたくない」「支えてくれる全ての人に恩返しがしたい」という気持ちです。この気持ちを原動力にウガンダの人々と共に成長し、そして私の大好きな福島県を世界中に伝えていきたいと思います。

シニア海外ボランティア
原（はら） 美子（よしこ）さん
①福島市
②エルサルバドル
③障害児・者支援

『東日本大震災・原発事故』に170ヶ国から支援があり、日本は世界最大の被援助国になりました。その中には多くの開発途上国も含まれています。この4年、命の尊さと、今を大切に生きることを痛感しています。任国では、障害のある子どもたちの幸せのために、現地の方々と一緒に活動したいと思います。

福島県出身ボランティア

市町村別
派遣中隊員数



2015年1月31日現在　合計派遣中32名／累計674名

青年海外協力隊			
派遣中	31	累　計	614

日系社会青年ボランティア			
派遣中	1	累　計	10

シニア海外ボランティア			
派遣中	0	累　計	45

日系社会シニアボランティア			
派遣中	0	累　計	5

JICAボランティア春募集

募集期間
2015年 4月1日～5月11日（当日消印有効）

JICAボランティア経験者の体験談を聞き、応募相談ができる「説明会」を県内各地で開催します!

●3月22日(日)
会場：小名浜港アクアマリンパーク
時間：10:00～15:00

●3月28日(土)
会場：郡山女子大学 62年館 3階 631教室
時間：13:00～15:00

●4月26日(日)
「1日体験入隊」
会場：JICA二本松
時間：12:00～17:00
※要事前予約・要参加費

※詳しくはJICA二本松ホームページをご確認ください。

着任のお知らせ

国内協力員
松田 洋平

アフリカにあるマラウィという国で理数科教師隊員として活動して参りました。昨年11月に着任し、東北の復興支援及び、協力隊経験者としてのサポートを志し、訓練所で気持ち新たに職務に取り組んでおります。震災後、日本が大変な時期になぜ海外なのかと思われる方はたくさんいらっしゃいます。しかし、世界中の人の支えがあったからこそ、今日の日本の幸せがあると私は考えます。協力隊はその支えを体感することができる素晴らしい機会です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

国際協力推進員
室井 研一

初めまして、2014年9月まで中東のヨルダンという国にあるパレスチナ難民キャンプ内の男子校で体育の先生をしていました。室井研一と申します。世界には様々な文化や宗教、人種に溢れ、我々日本人もその中の一部であるということを学んだ2年間でした。

今年の2月からは国際協力推進員として、自治体と連携した国際協力事業や広報啓発活動、国際協力関連のイベントのフォローアップに携わる予定です。

ラジオ番組のご案内

JICA二本松 公式Facebook

これ、なんの訓練? 答えはJICA二本松のFacebookページをご覧ください!
（2015年1月9日投稿）

ほぼ毎日、更新中!
https://www.facebook.com/jicantc

ふくしまFM

キミノチカラ、海を越えて ～青年海外協力隊の道～

世界各国で活躍した隊員をゲストに迎え、参加の動機から任地での活動、帰国後のお話を2週に渡ってたっぷりうかがいます。

毎週土曜／8:30～8:55

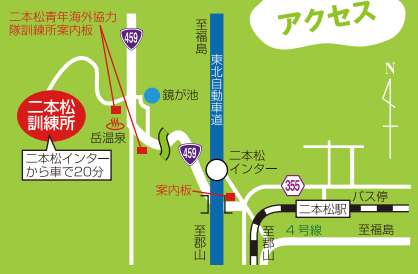
FM Mot.Com

世界も、自分も、変えるラジオ

二本松訓練所の訓練生がつくる番組です。熱い想いが詰まった60分!

第2木曜／13:00～14:00
（再放送：第3木曜/13:00～14:00）

アクセス



発行元
独立行政法人国際協力機構
二本松青年海外協力隊訓練所
〒964-8558 福島県二本松市永田字長坂4-2
Tel: 0243-24-3200 Fax :0243-24-3214

●本誌に関するお問合わせ
JICA福島デスク 担当：室井（むろい） Tel:024-524-1315 Fax:024-524-8308
〒960-8103 福島市舟場町2-1（公財）福島県国際交流協会内